

8/19 (木)

2010年(平成22年)

新潟日報

夕刊
発行所 新潟日报社
本社 〒950-1189 新潟市西区善久772-2
第24322号

題字 會津 八一

今年の夏は残暑が厳しいので、少し涼しい冬の話題を…。冬、湯沢町は深い雪に覆われます。地元の人にとって「雪」は時として「害」にもなりますが、私たちのゲストにとっては、まさに「天からの贈り物」です。

冬の事業「障がい者専門スキースクール・ネージュ」は、スキースクールでは非常に珍しい存在で「障がい者専門」は国内に数件しかありません。シーズン中にはたくさんさんのゲストが、全国各地からこの町へスキーに来てくれます。



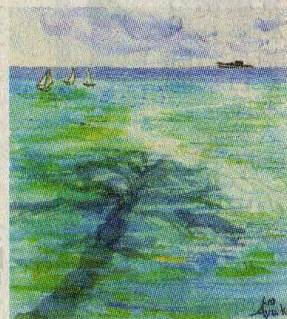
視覚障がい、車いす常用、発達障がい、切断、片麻痺など「障がい」といってもさまざまですが、障がいのあ

る人にとって、スキーは決して難しいことではありません。筋力が弱くても、それを補う専用の器具があります。目が見えなくても私たちスタッフが目の役割を果たせばよいのです。

スタッフが日ごろ心がけていることがいくつかありますが、そのひとつが「上手にできないのはスタッフの責任」ということ。どんな障がいがあっても、「スタッフによる少しの工夫とアイデア、適切な器具の選択と調整」があれば可能に

障がい者スキースクール

なります。うまくいかないのは、どこかが足りないために上手にできないだけ。また、「スタッフがゲストよりたくさん汗をかく」ということも大切です。筋力が少ないため転倒すると、自分で起きられないゲストもいます。初めてのゲストがスタッフより上手にできないのは当然です。そのため一日に30回も起こすことも珍しくありません。



真冬なのに汗だくとなり疲労度も高くなりますが、スタッフは常に笑顔です。ゲストと一緒にスキーを楽しむということを実践するための当然の心がけだからです。

ゲストは最初とても緊張した表情で来場します。でも、一日が終わるころには「心からにしみ出る笑み」が浮かびます。できないと思っていたことができたとき、人には希望と勇気がわいてきます。湯沢町に降るたくさんさんの雪とスタッフが、少しのお手伝いをするのです。

稲治 大介 (NPO法人理事長・湯沢町)